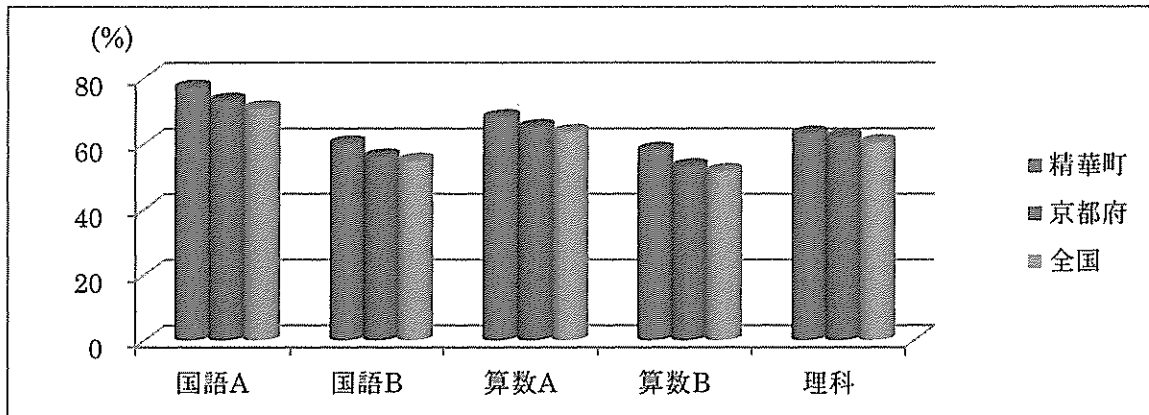


全国学力・学習状況調査の結果

(平成30年4月17日実施)

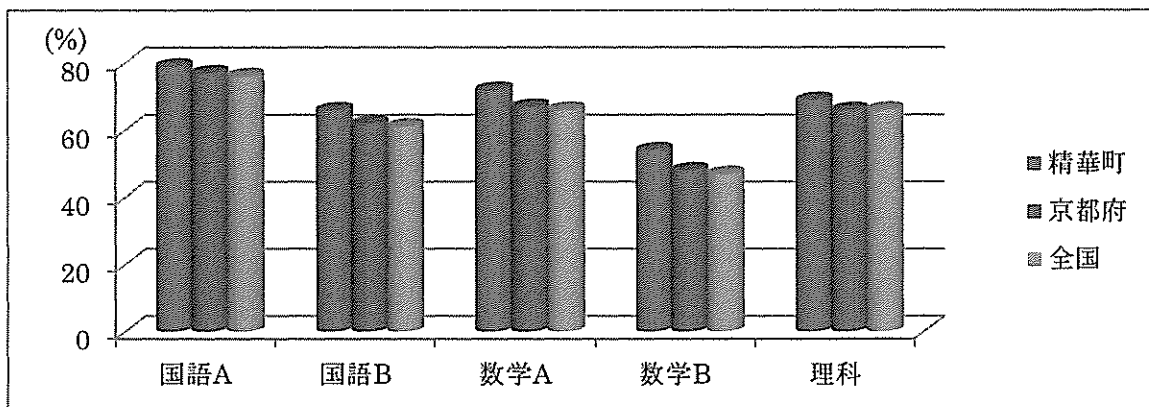
【小学6年生】



国語のA問題では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことや、日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使うといった問題、また、漢字を文の中で正しく使う問題において、特に優れていました。しかし、主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く問題では課題が残りました。B問題では、話合いの参加者として質問の意図を捉えたり、計画的に話し合うための司会の役割について捉える問題では優れていました。

一方、算数のA問題では、数と計算に関する問題で全国平均を大きく上回る結果となり、学習の成果が見られました。また、B問題ではメモの情報とグラフを関連付け、総数や変化について記述する問題で課題が見られました。

【中学3年生】



国語のA問題では、「読む・書く・話す・聞く」の学習領域でバランスよく習得できていましたが、B問題では、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く「記述式」の問題においては課題が残りました。

一方、数学のA問題においては、「数と式」「図形」「関数」「資料の整理」の各領域とも全国を上回る結果になりました。また、B問題では、関数の問題で、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題において、課題が残りました。

3年ぶりに調査された理科においても、「科学」「物理」「生物」「地学」の各領域において全国を上回ることができています。

小6生81.9%、中3生70.8% 将来の夢や目標がある！！

カテゴリー1 《学習状況について》

精華町では、77%をこえる子どもたちが、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいこうという意識で学習しています。また、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していることから、80%近い子どもたちが、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているとも感じています。

カテゴリー2 《家庭学習について》

家庭での学習についての質問では、精華町の多くの子どもたちが、熱心に家庭で宿題に取り組んでいることがわかります。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問では、「当てはまる」と回答した小学6年生も中学3年生も、全国平均より低いという結果になりました。小学生から、積極的に家庭学習を進める習慣をつける必要があります。

カテゴリー3 《自分自身の事について》

「自分には良いところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」と回答した小学6年生及び中学3年生が、全国平均との比較で低い結果となりました。また、将来の夢や希望においては、小学6年生で81.9%、中学3年生で70.8%が肯定的な回答でした。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問では、中学3年生において、91.9%の生徒が肯定的に回答しました。

カテゴリー4 《規範意識について》

「学校の規則を守っていますか」の質問において、小学6年生の回答が全国平均を下回る結果となりました。次に、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問においては、90%以上の児童生徒が肯定的な回答をしています。また、「いじめ」に関する質問においてもほとんどの児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と判断しています。

カテゴリー5 《体験的な活動について》

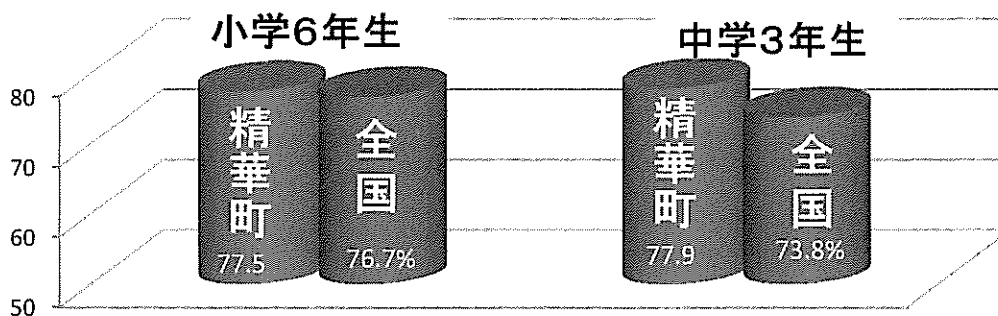
「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」の質問においては、小学6年生でも中学3年生でも、全国平均を上回っています。次に、地域の行事への参加や地域社会などでのボランティア活動については、小学6年生、中学3年生ともに、全国平均よりも概ね高い結果となりました。

カテゴリー6 《家庭生活について》

朝の起床については、小学6年生、中学3年生ともに規則正しく決まった時間に起きていることがわかります。また、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」の質問では、概ね小中学生とも全国平均を下回る結果となっています。次に「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問では、小学6年生で80.5%、中学3年生で78.3%の児童生徒が肯定的な回答をしていることがわかります。

◆◆◆質問紙調査の結果より、特徴的な状況として◆◆◆

【質問】 これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



児童生徒の質問紙調査の中で、「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問において、小学6年生で77.5%の児童が、中学3年生で77.9%の生徒が肯定的な回答をしています。また、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していることから、80%近い子どもたちが、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているとも感じています。新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進みつつあります。